

茗溪学園中学校高等学校

Study Skills を身につけさせる教育 その 20

個人課題研究：田代ゼミ 27 回生の場合（その 1）

教務部長 田代 淳一

これまでのこのコラム（その2・6・7・8・9・18）で度々紹介してきました、高校2年次に1年間かけて自分の関心のあるテーマを研究し、まとめる「個人課題研究」。開校以来 30 年間続けている取り組みですが、その後もますます充実しています。

今回は、今年の3月に卒業した 27 回生のうち、「田代ゼミ」の生徒たちのエピソードをお知らせします。

個人課題研究

この個人課題研究は茗溪学園が独自に設定したいわゆる「学校設置科目」です。今でこそ総合学習として中学・高校とも必修科目として学習指導要領に織りこんでありますが、Study Skills の獲得を教育目標の根幹に置いている茗溪学園では 30 年前から必修科目として高校 2 年に設置しています。テーマに関し、教師から誘導・強制することはいっさいなく、純粋に自分の研究したいテーマを自分自身で探求する、本当の問題解決能力の育成プログラムであり、松本編集長がよく仰る Independent Thinker となるための最終プロセスとして位置づけています。従って、生徒も教師もこの取り組みに注ぐエネルギーは莫大なものです。

さて、生徒に自由にテーマを設定させると「～という形で世の中（の人々）の役に立ちたい」と将来を発想してテーマを絞っていきますから、社会的なテーマと科学的なテーマが多くなります。この取り組みでは生徒は指導教師を自由に選べますから、どうしても社会科と理科の教師に希望生徒が多く集まります。そこで、社会と理科の教師は個人課題研究の時間として確保されている土曜の 3・4 時間目（本校は 6 日制です）はできるだけ授業を入れないように時間割を工夫します。それでも、例えば私を指導担当として希望した生徒は 30 名近くなるため、とても個別指導では対応できません。そこでここ 15 年くらいはゼミ方式で指導しています。この 2 時間内に一人 3 分で発表し、司会の生徒（「座長」という役職です）のもとで質疑応答を入れながらディスカッションしていきます。最後に私から全員に短くコメントしていき、全体に次回の課題を提示するという方法です。

この年度のゼミ員全員の研究テーマを紹介すると表 1 のようになります。いくつかの例を紹介します。

実例紹介

No.31 の Q さんはテュッセルドルフ日本人学校から海外生特別選抜で合格した高校入学生です。ドイツはペットに関する飼い主の義務が徹底していて、日本のように簡単にペットを購入し簡単に捨ててしまうことができません。動物を愛する Q さんは、動物が犠牲になる動物実験をなくせないか調べていくうちにドイツの代替法に注目、日本でなぜ代替法を適用できないかを考察しました。研究のアドバイスをもらった日本動物実験代替法学会の教授から、研究成果を学会の第 20 回大会の高校生の部で発表することを勧められ、その年の 12 月に発表しました。Q さんは動物を救う獣医になることを目指し、麻布大学獣医学部に進学しました。

No.16 の G 君は法律に興味のある元野球部の生徒で、時効の成立している 28 年前の殺人事件の犯人が自首してきたニュースから時効制度に関心を持ち、研究を始めました。G 君は主に海外の時効制度と比較する方法をとり、彼自身のカテゴリーで「大陸法系（独・仏）」と「英米法系」に分類し、独自の視点でその背景となっている思想を整理して日本の公訴時効制度の今後の進むべき方向に仮説をたてて論文化しました。G 君は東京大学文科 I 類に進学しました。

No.14 の I さんは日本の ODA が巨額の援助をしているのになぜこんなに批判されるのかという疑問から問題点を探る研究をしました。特に対中支援に焦点を絞り、北京・秦皇島鉄道拡充事業の例を研究し、ODA 大綱違反や事前調査の不足の問題点を指摘、解決のための仮説を提案しました。研究のアドバイスは慶応義塾大学総合政策学部草野厚教授からもらいましたが、進学は筑波大学国際総合学群を選びました。

No.7 の E さんはちょうど研究の始まった高校 1 年の 1 月から 1 年間、オーストラリアに留学しました。将来国際的な仕事を希望していた彼女は、海外で活躍する日本人として何を誇りにできるかということテーマにしたいと希望していました。留学中は電子メールで私と連絡を取り、せっかく海外にいるのだからそこでできる研究方法として、留学先のオーストラリアの高校生が日本人に対してどのようなイメージを持っているのかを面接調査してくること、現地に暮らす日本人が何を誇りにしているかをインタビューしてくることを試みました。しかし留学先はヴィクトリア州の大草原の中の村。日本人はほとんどいないため、たまに出かけるときのバスに乗り合わせた日本人らしき人にアタック。帰国後、締め切りを延長してもらい、文献研究を付け加えて論文化しました。進学は東京大学文科Ⅲ類にしました。